

平成27年11月16日
総務省統計局

第61回人口・社会統計部会の審議において整理、報告等が 求められた事項に対する回答

1 社会生活基本調査の変更

(1) 報告を求める事項の変更

エ ふだんの健康状態

- 1 本調査事項の調査対象を15歳以上の世帯員に限定する具体的な理由や根拠に乏しいのではないか。調査対象を10歳以上の世帯員に拡大することによって、子供の健康状態に関連した家事時間などについてもより有用なデータが得られるのではないか。
- 2 「ふだんの生活への影響の有無などにより」との説明文を加えることにより、報告者にとってかえって複雑で分かりにくくなるのではないか。従来のように主観的に健康度を回答する方が、報告者にとって分かりやすく、かつ、国際比較が可能なデータを把握できるのではないか。
- 3 国際比較の観点からも、厚生労働省が所管する国民生活基礎調査（健康票）と同様に「ふつう」の選択肢を設け、5区分とすべきではないか。
- 4 「悪い」との選択肢は、報告者の心理的な負担も考慮すると好ましくないのではないか。国民生活基礎調査（健康票）と同様に「良くない」とすべきではないか。

(回答)

- 1 ご指摘を踏まえ、当該事項の調査対象を10歳以上の世帯員に拡大する。
- 2 今回調査において、「ふだんの健康状態」の把握対象を有業者から無業者にも拡大することの検討に当たって、「ふだんの健康状態」の記入状況をアンケート調査により確認したところ。
有業者・無業者で回答の傾向に大きな差はみられなかったが、健康状態が「良い」、「まあ良い」を選んだ者のうち、17.5%が「健康に不安があるが、日常の行動に支障がないため」を判断理由としている一方、健康状態が「あまり良くない」、「悪い」を選んだ者のうち、38.3%が「日常の行動には支障はないが、健康面に不安を感じているため」を判断理由としており、客観的に見れば同じ健康状態であるにもかかわらず、記入者の意識によって、良い・悪いの逆の回答となっている。
国際比較の観点からは、主観的な把握が適切ではないかとのご指摘をいただいているが、健康状態と生活行動・生活時間の配分との関係をよりの確に把握するには、「ふだんの生活への影響の有無などにより」という文言を追加する必要があると考えたところ。
- 3 ご指摘を踏まえ、選択肢の区分について、「ふつう」を加えた5区分に変更する。
- 4 ご指摘を踏まえ、選択肢の区分「悪い」を「良くない」に変更する。

表 健康状態の判断基準

	実数(人)			割合(%)		
	総計	有業者	無業者	総計	有業者	無業者
総計	1,669	1,071	598	-	-	-
総計(良い、まあ良い)	1,327	866	461	100.0	100.0	100.0
日常の行動に支障がないため	772	520	252	58.2	60.0	54.7
健康診断などで問題がなかったため	262	185	77	19.7	21.4	16.7
健康に不安はあるが、日常の行動には支障がないため	232	137	95	17.5	15.8	20.6
同世代の人と比べて、健康的であると思うため	56	22	34	4.2	2.5	7.4
その他	5	2	3	0.4	0.2	0.7
総計(あまり良くない、悪い)	342	205	137	100.0	100.0	100.0
日常の行動に支障があるため	74	36	38	21.6	17.6	27.7
日常の行動に支障はないが、健康診断などで問題ありと指摘されているため	68	49	19	19.9	23.9	13.9
日常の行動に支障はないが、健康面に不安を感じているため	131	82	49	38.3	40.0	35.8
同世代の人と比べて、健康があまり良くないと思うため	59	31	28	17.3	15.1	20.4
その他	10	7	3	2.9	3.4	2.2

※ 民間調査会社に委託したインターネットによるアンケート調査結果（民間調査機関が管理する15歳以上の登録モニター、1669人）

ク スマートフォン、パソコンなどの使用状況

調査票Aではスマートフォン、パソコンなどの使用状況を24欄「生活時間について」とは別途の調査項目において把握することとしているが、例えば日常生活において四六時中スマートフォンを使用している場合、使用目的との関係で使用時間帯や時間数をどのように回答すべきかなど、報告者にとって紛れが生じる場合があるのではないかと。また、記入のしかたについて、具体的な場面を想定した説明例を示してほしい。

(回答)

別紙1 参照

ク スマートフォン、パソコンなどの使用状況、シ 生活時間配分

調査票Aにおける本調査項目の新設により把握する3要素（スマートフォン、パソコンなどの使用目的、使用時間数及び使用時間帯）に係るデータを用いて、どのような集計表を作成するのか代表的な集計表のイメージを提示いただきたい。また、調査票Bの16欄「生活時間について」において主行動と同時行動それぞれの別にスマートフォン、パソコンなどの使用状況を把握することについても同様に、代表的な集計表のイメージを提示いただきたい。

(回答)

別紙2 参照

コ 在学・在園の状況

- 1 本調査事項に関しては、ワーク・ライフ・バランスや男女共同参画に関する施策の検討に資する上で、夫婦共働きの世帯であるか否かということや、男性の家事・育児への参加状況などとのクロス集計結果が有用であると考えられることから、夫婦共働きか否か（有業者、無業者）の詳細な類型（正規の職員、正規の職員以外）別に表章することについて検討いただきたい。また、幼稚園や保育園等の利用状況は地域によっても異なるので、地域別集計についても検討いただきたい。
- 2 ふだんの在園時間を4区分（4時間以下、5～7時間、8～11時間、12時間以上）に設定した場合、回答の分布はどのようなことが想定されるのか示していただきたい。

（回答）

- 1 ご指摘を踏まえ、夫婦共働きか否か（有業者、無業者）の表章だけではなく、有業者について正規の職員・従業員、正規の職員・従業員以外別に細分化して表章することとする。

なお、地域別結果については、新たに、夫婦共働きか否か（有業者、無業者）別に在園状況別の結果を都道府県別に集計するなど、サンプルサイズの制約の中で、可能な限りの表章を行うこととしている。

〈原案〉	〈変更案〉																		
<table border="1"> <tr> <td>共働きか否か</td> </tr> <tr> <td>夫が有業で妻も有業（共働き）</td> </tr> <tr> <td>夫が有業で妻が無業</td> </tr> <tr> <td>夫が無業で妻が有業</td> </tr> <tr> <td>夫が無業で妻も無業</td> </tr> </table>	共働きか否か	夫が有業で妻も有業（共働き）	夫が有業で妻が無業	夫が無業で妻が有業	夫が無業で妻も無業	<table border="1"> <tr> <td>共働きか否か×雇用形態</td> </tr> <tr> <td>夫が有業で妻も有業（共働き）</td> </tr> <tr> <td>夫も妻も正規の職員・従業員</td> </tr> <tr> <td>夫が正規の職員・従業員で妻が正規の職員・従業員以外</td> </tr> <tr> <td>夫が正規の職員・従業員以外で妻が正規の職員・従業員</td> </tr> <tr> <td>夫も妻も正規の職員・従業員以外</td> </tr> <tr> <td>夫が有業で妻が無業</td> </tr> <tr> <td>夫が正規の職員・従業員</td> </tr> <tr> <td>夫が正規の職員・従業員以外</td> </tr> <tr> <td>夫が無業で妻が有業</td> </tr> <tr> <td>妻が正規の職員・従業員</td> </tr> <tr> <td>妻が正規の職員・従業員以外</td> </tr> <tr> <td>夫が無業で妻も無業</td> </tr> </table>	共働きか否か×雇用形態	夫が有業で妻も有業（共働き）	夫も妻も正規の職員・従業員	夫が正規の職員・従業員で妻が正規の職員・従業員以外	夫が正規の職員・従業員以外で妻が正規の職員・従業員	夫も妻も正規の職員・従業員以外	夫が有業で妻が無業	夫が正規の職員・従業員	夫が正規の職員・従業員以外	夫が無業で妻が有業	妻が正規の職員・従業員	妻が正規の職員・従業員以外	夫が無業で妻も無業
共働きか否か																			
夫が有業で妻も有業（共働き）																			
夫が有業で妻が無業																			
夫が無業で妻が有業																			
夫が無業で妻も無業																			
共働きか否か×雇用形態																			
夫が有業で妻も有業（共働き）																			
夫も妻も正規の職員・従業員																			
夫が正規の職員・従業員で妻が正規の職員・従業員以外																			
夫が正規の職員・従業員以外で妻が正規の職員・従業員																			
夫も妻も正規の職員・従業員以外																			
夫が有業で妻が無業																			
夫が正規の職員・従業員																			
夫が正規の職員・従業員以外																			
夫が無業で妻が有業																			
妻が正規の職員・従業員																			
妻が正規の職員・従業員以外																			
夫が無業で妻も無業																			

- 2 「ふだんの在園時間」の4区分については、幼稚園教育要領における標準教育時間が4時間であることから、まず、4時間以下の区分を設定し、さらに、子ども・子育て支援新制度における通常の保育時間が8～11時間であることから、8～11時間の区分を設定、前後の時間区分として、5～7時間、12時間以上の区分をそれぞれ設定したものであるが、各区分の分布については、学校基本調査（文部科学省）、社会福祉施設等調査（厚生労働省）などの既存統計について確認をしたところ、前者については在園者数総数、後者については開所時間別の在園者数までしか把握できないなど、既存統計から在園時間別の在園者数を特定するための情報は確認できなかったところ。

調査票A -23欄「スマートフォン・パソコンなどの使用について」及び24欄「生活時間について」の記入について

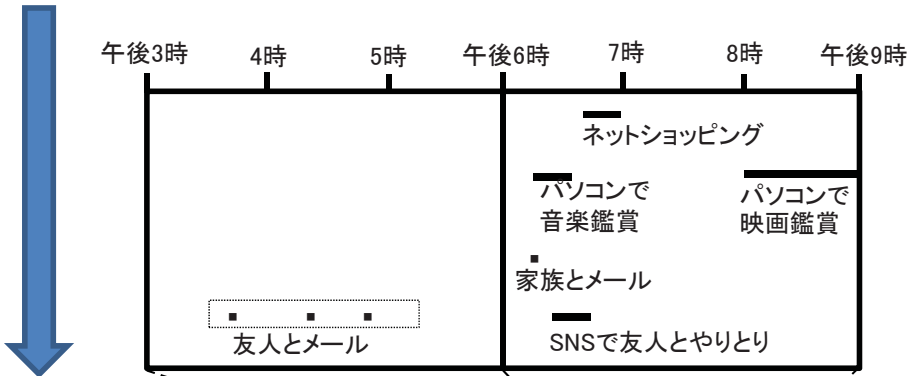
23欄「スマートフォン・パソコンなどの使用について」

【説明文例】

- スマートフォン・パソコンなどを少しでも使用した場合は、それぞれの目的ごとに使用した時間帯に記入してください

記入例

- 実際のスマートフォン等の使用状況



- 調査票への記入

		午後0時	3時	6時	9時	午後12時
ネットショッピング		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
趣味・娯楽		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
交際・つきあい・コミュニケーション	家族と	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	友人・知人と	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	家族・友人・知人以外の人と	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
その他の使用		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

24欄「生活時間について」

【説明文例】

- 15分単位で記入してください。15分間にいくつかの行動をした場合は、そのうち**最も時間が長かったもの**を記入します
- 同時に二つ以上の行動をした人は、そのうちの**おもな行動**について記入してください

記入例

	午後6:00	6:15	6:30	6:45	午後7:00
実際の行動	仕事からの帰り	家族とメール	パソコンで音楽鑑賞	SNSで友人とやりとり	ネットショッピング
調査票へ記入する行動	通勤・通学		食事		買い物

※「家族とメール」、「パソコンで音楽鑑賞」、「SNSで友人とやりとり」は調査票に記入しない。

「スマートフォン・パソコンなどの使用」に関する結果表(イメージ)

調査票 A

[23 欄]スマートフォン・パソコンなどの使用時間と[24 欄]主行動の種類のカロス集計 (生活時間編・区分内一連番号 I-2-1)

	行動の種類 注2)											
	20 区分									(再掲)		
	睡眠	身の回りの用事	食事	通勤・通学	仕事	～	交際・付き合い	受診・療養	その他	1次活動	2次活動	3次活動
曜日 ×スマートフォン・パソコンなどの使用時間 注1) ×男女 ×ふだんの就業状態 ×年齢	表章事項：総平均時間，行動者平均時間，行動者率 地域：全国											

注1)
 スマートフォン・パソコンなどの使用時間
 使用していない
 使用した
 1 時間未満
 1～3 時間未満
 3～6 時間未満
 6～12 時間未満
 12 時間以上

注2)
 行動の種類

睡眠	} 1次活動	移動(通勤・通学を除く) テレビ・ラジオ・新聞・雑誌	} 3次活動
身の回りの用事			
食事			
通勤・通学	} 2次活動	休養・くつろぎ 学習・自己啓発・訓練(学業以外) 趣味・娯楽	
仕事			
学業			
家事	} 3次活動	ボランティア活動・社会参加活動 交際・付き合い 受診・療養 その他	
介護・看護			
育児			
買い物			

[23 欄]スマートフォン・パソコンなどの使用時間と[24 欄]起床時刻のクロス集計（平均時刻編・区分内一連番号 I-4-1）

	起床時刻					
	-3:45	4:00	4:15	～ (15 分刻み)	13:45	14:00-
曜日 ×スマートフォン・パソコンなどの使用時間 注1) ×男女 ×年齢	表章事項：行動者数（構成比） 地域：全国，都道府県					
曜日 ×スマートフォン・パソコンなどの使用時間 ×男女 ×教育						
曜日 ×スマートフォン・パソコンなどの使用時間 ×男女 ×ふだんの就業状態 ×ライフステージ						

注1)

スマートフォン・パソコンなどの使用時間

使用していない

使用した

1 時間未満

1 ～ 3 時間未満

3 ～ 6 時間未満

6 ～ 12 時間未満

12 時間以上

[23 欄]スマートフォン・パソコンなどの使用時間、使用目的及び使用時間帯のクロス集計（時間帯編・区分内一連番号 I -3-1）

	スマートフォン・パソコンなどの使用時間帯					
	0:00-3:00	3:00-6:00	6:00-9:00	～ (3時間刻み)	18:00-21:00	21:00-24:00
曜日 ×スマートフォン・パソコンなどの使用時間 注1) ×スマートフォン・パソコンなどの使用目的 注2) ×男女 ×ふだんの就業状態 ×年齢	表章事項：行動者率 地域：全国，都道府県					

注1)

スマートフォン・パソコンなどの使用時間

- 1時間未満
- 1～3時間未満
- 3～6時間未満
- 6～12時間未満
- 12時間以上

注2)

スマートフォン・パソコンなどの使用目的

- ネットショッピング
- 趣味・娯楽
- 交際・つきあい・コミュニケーション
 - 家族と
 - 友人・知人と
 - 家族・友人・知人以外の人と
- その他の使用

調査票B

[16 欄]スマートフォン・パソコンなどの使用と行動の種類のカロス集計（平均時間編・区分内一連番号Ⅱ-1-2）

	行動の種類（小分類） 注2)						～
	有償労働						
	主な仕事関連		副業関連		通勤		
	主な仕事	主な仕事 中の移動		副業	副業中 の移動		
曜日 ×スマートフォン・パソコンなどの使用 注1) ×男女 ×ふだんの就業状態 ×行動の場所 ×年齢 曜日 ×スマートフォン・パソコンなどの使用 ×男女 ×ふだんの就業状態 ×一緒にいた人 ×年齢	表章事項：主行動の行動者率，主行動及び同時行動の行動者率 地域：全国						

注1)

スマートフォン・パソコンなどの使用
 スマートフォン・パソコンなどを使用した
 スマートフォン・パソコンなどを使用していない

注 2)

行動の種類 (小分類)

有償労働

主な仕事関連

主な仕事
主な仕事中の移動

副業関連

副業
副業中の移動

通勤

通勤

その他の仕事関連

仕事中の休憩
求職活動

無償労働

家事

食事の管理
菓子作り
園芸
住まいの手入れ・整理
衣類等の手入れ
衣類等の作製
建築・修繕
乗り物の手入れ
世帯管理
子供(乳幼児以外)の介護・看護
家族(子供以外)の介護・看護
子供(乳幼児以外)の身の回りの世話
家族(子供以外)の身の回りの世話
その他の家事

育児

乳幼児の介護・看護
乳幼児の身体の世話と監督
乳幼児と遊ぶ
子供の付き添い等
子供(乳幼児以外)の教育
子供の送迎移動
子供(乳幼児以外)と遊ぶ

買い物・サービスの利用

買い物
公的サービスの利用
商業的サービスの利用

家事関連に伴う移動

家事関連に伴う移動

ボランティア活動関連

ボランティア活動
ボランティア活動に伴う移動

学業, 学習・自己啓発・訓練

学業

学校での授業・その他学校での行動
学校の宿題
家庭教師による勉強, 学習塾・予備校での勉強等
学校での学習(学業)中の休憩

通学

学習・自己啓発・訓練(学業以外)
学習・自己啓発・訓練(学業以外)

個人的ケア

睡眠関連

睡眠
うたたね
療養

身体的ケア

受診
入浴(自分自身や家族等が行うもの)
身の回りの用事(自分自身や家族等が行うもの)
身の回りの用事(個人サービスの利用)
療養のための世話(自分自身や家族等が行うもの)

食事

朝食
昼食
夕食
夜食
軽飲食

自由時間

社会参加・宗教活動
社会参加活動
礼拝・読経

交際

冠婚葬祭
人と会って行う交際・付き合い
家族とのコミュニケーション
電話による交際・付き合い
電子メール等による交際・付き合い
手紙等による交際・付き合い

教養・趣味・娯楽
 教養・娯楽
 創作
 趣味としての菓子作り
 成果物を得る趣味・娯楽
 趣味としての園芸
 ペットの世話
 犬の散歩等
 趣味としての衣類等の作製
 趣味
 コンピュータの使用
 ゲーム
 ドライブ
 他に分類されない趣味・娯楽
 スポーツ
 エアロビクス系スポーツ
 球技
 ウォーター系スポーツ
 成果物を得るスポーツ
 他に分類されないスポーツ
 マスメディア利用
 読書
 新聞・雑誌
 テレビ
 ビデオ・DVD
 ラジオ
 CD・音声ファイル
 休養・くつろぎ
 休養・くつろぎ
 その他
 移動
 家事的趣味に伴う移動
 その他の移動
 調査・その他
 社会生活基本調査に関連する行動
 他に分類されない行動
 (再掲)
 無償労働(国際比較)